

かながわ フリートリーク

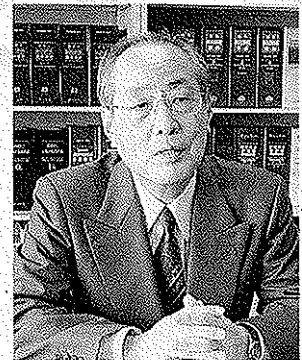
中小企業は製造業、建設業でなお厳しい状況だ。苦境を乗り越え、「持続可能な会社へと体質を変えるには何が必要か。経営者塾などを通じ、強い企業の研究を続ける公認会計士・税理士の高良明氏に話を聞いた。同氏は会計士事務所や人材紹介会社など6団体で構成する創新グループ(川崎市)の代表を務める。

—優秀な企業の社長を訪ね、自ら経営の実態を聞くことを勧めている。

「『創新塾』という経営研究会を運営している。7

中小、存続の秘訣は

創新グループ代表
高良 明氏



強み伸ばし蓄積増やせ

「8人のチームに分かれて個別に行動していたが、今初めて『1000年企業探求会』を開き、全体発表する場を設けた。塾では自社の財務諸表や経営の悩みもさらけ出す。他社の社長から厳しい指摘を受け、互いに解決策を出し合ういわば『社外重役会議』で、全国から参加している」

—優れた企業や経営者が持つ共通点は何か。 「強い会社は倫理観と生産性の2つがしっかりして求むる。従業員が大事になる。財務バランスが肝心だ」

—「例えば(採血管準備装置)の売上高経常利益率を維持し、内部留保を蓄積して自強すること。他との違いを打ち出した『とんがり』のある製品やサービスを生み出す創意工夫がある。そこで考え方の合う企業同士の相互協力が大事になる」

—苦境にある社長が心得ておくべき点は。 「不要・遊休資産はすぐ売却する。経営の悪化を回避する仕組みも必要だろ(聞き手は上野雅紀)」

—中小企業向け緊急経済対策の課題は。 「融資の際、有益な事業に使われるのかといった審査を重視した方がいいと思う。今は運転資金に回る場合が多いが、税理士が返済計画の適否などをしっかり確認する仕組みも必要だろ(聞き手は上野雅紀)」

己資本比率が70%を超えている。また、川崎市の小川組は販管費の3年分を現預金で所有し、自己資本比率も50%を上回っている」

—中小企業はどう難局を乗り切ればいいか。 「本業の強みを少しずつ明し、生活の切りつめをお願いして一緒に何とかしようという状態に持つていくことが大事。当然、社長の給料は大幅カットする」

—業績が安泰な時こそ、蓄積を増やすのが基本。松下幸之助さんが言った『タム経営』だ。信用力が乏しいのだから、高級車など買わず身の丈をわきまえること。それができない企業は耐え忍ぶしかない」

神奈川

